

プログラムの概要

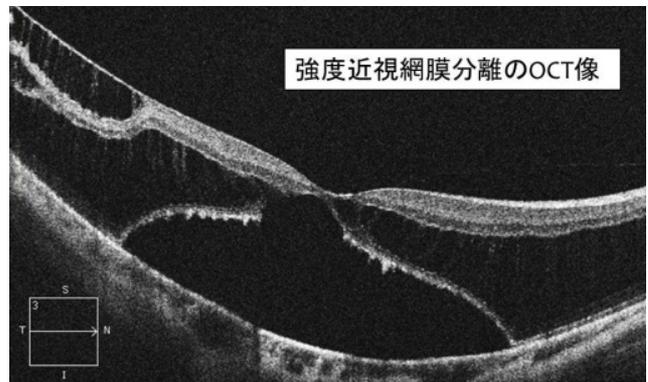
眼科では、将来医師として理解が必要な、白内障、緑内障、屈折異常、角結膜・網膜・斜視疾患など、眼科common diseaseについて知識と技術を習得していただきます。眼科は外科系要素と内科系要素の両方を持ちますので、早期から白内障手術、硝子体手術、緑内障手術、斜視手術などの様々な手術に携わっていただきます。さらに、さまざまな高度医療機器に習熟していただき、最先端の眼科医療に触れていただきます。これらの研修を通じて、眼科診療の面白さ、奥の深さ、重要性を理解することができます。さらに医学には論理的思考が非常に重要ですので、早期から探索的研究の機会を設けております。

将来眼科医を志望されている方には、初期研修早期から選択科目として、眼科を選択し、卒後3年目からの後期研修では早期に眼科専門医としての知識スキルを習得することができるように指導いたします。また本学出身者の先生方にも広く門戸を開放しており、多数の外部大学出身者を受け入れております。

アピールポイント

眼科の診療の醍醐味は手術です。本教室では院内最多の年間1400件を超える手術を行っており、2023年度から局所麻酔専門手術室が増設され、日帰り手術が開始されより多数の手術症例を経験することが可能となりました。卒後研修早期から、多くの手術を経験し、後期研修開始1年以内に白内障手術が術者として施行できるように指導致します。豚眼を使用した手術実習(ウェットラボ)や指導医による指導体制の元、多くの手術手技を習得することができます。最新の検査・治療機器も導入しておりますので、病態の解明や最新の治療を習得することも出来ます。

情報化社会においては視機能は最も重要な感覚機能です。白内障や硝子体手術、また内科治療などにより視機能が改善して喜ぶ多くの患者さんを見る事が出来る眼科は非常にやりがいのある診療科です。眼科は予防から診断、治療まで一貫して患者と向かい合うことが出来るため、非常に達成感が得られます。また眼科医はオフとオンがはっきりしているため、医師個人のQOLも良好で、様々なライフスタイルを選択出来ます。高齢社会において眼科の需要は今後も高くなる事が予想されており、多くの医師が眼科医療に携わっていただくことを歓迎します。



眼科は外科系診療科ですが、一方で、神経眼科疾患や網膜ブドウ膜疾患など、多くの検査を駆使して行う診断プロセスは、内科医的な興味も十分に満足させてくれます。光干渉断層計(OCT)検査では組織/細胞レベルでの網膜構造を観察ことができ、ミクロの世界を相手にする臨床の面白さを実感できます。

具体的な研修内容

研修医は眼科の各診療グループに属して、上級医師から、病棟での診察、処置、手術について、マンツーマンで指導を受けます。その際、最初の目標は細線灯顕微鏡と眼底検査に習熟することです。角膜、前房、水晶体、硝子体という眼球特有の本来透明であるべき組織の病変を正しく評価できるようになり、また黄斑部、視神経乳頭病変を直接観察して、異常の有無を判断できるようになると眼科診療医としての満足が得られるようになります。眼科診療に必要な視力、眼圧、視野、隅角、光干渉断層計、両眼視機能、眼筋機能、涙液関連検査など多くの検査を実践できるとともにその意義、結果の評価の理解を深めます。病棟では不安をかかえて入院してきた患者さんに対して、病態や治療方針を正しくわかりやすく説明できるようになることが研修の目標になります。さらに眼科のサブスペシャリティとして、角膜、網膜、ぶどう膜、緑内障、水晶体(屈折矯正)、小児眼科、神経眼科、眼瞼、眼窩、涙道、ロービジョンと幅広い専門分野があり、一般眼科臨床技術を身につけた上で、これらの専門外来でレベルアップするプログラムが用意されています。

臨床研究者として病気の理解を深めたり、新たな治療方法を考えるために、学会に参加したり、専門医取得に向けて論文指導を行います。